

令和元年台風第19号 保健師派遣通信

【令和元年11月20日（水）】

保健師活動報告

令和元年10月12日（土）に発生した台風19号の記録的な大雨によって、多くの河川で氾濫が起これ、広域にわたって多数の家屋で浸水や土砂流入等の被害をもたらしました。こうした中、10月21日（月）に厚生労働省を通じて福島県から保健師の派遣要請があり、10月23日（水）からの保健師の派遣を決定しました。

10月23日（水）から10月30日（水）の8日間、計2班が福島県いわき市において、家庭訪問を通じた健康調査や感染症予防等の支援活動を実施しました。



【派遣職員】

○第1班 10月23日（水）～10月26日（土）（10月22日現地入り）

保健福祉局健康長寿のまち・京都推進室 保健師
西京区役所保健福祉センター 保健師
保健福祉局健康長寿のまち・京都推進室 事務職2名
（途中交代）

○第2班 10月26日（土）～10月30日（水）

上京区役所保健福祉センター 保健師
南区役所保健福祉センター 保健師
保健福祉局医療衛生センター 保健師



【活動場所】

家庭訪問：いわき市 平地区

【主な活動の流れ】

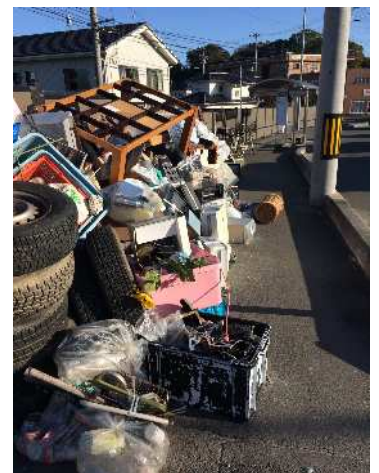
- 8時30分 オリエンテーション、ミーティング
- 9時00分 家庭訪問
- 12時00分 昼食
- 13時00分 家庭訪問
- 16時00分 記録、ミーティング



ミーティングの様子

【活動内容】

本市が担当したいわき市平地区では、今回の災害で8名の方が亡くなられ、市内床上浸水世帯の約7割を占める約3,200世帯が床上浸水の被害を受けました。



派遣中は浸水した家庭を訪問して、感染症の予防指導や世帯員の健康状態について保健指導を行いました。被害を受けた地域の空き地や公園、道路わき等あらゆる場所がごみの集積場となっており、臭いが漂い、さらに目に見えるほどの粉塵が舞う中、住民の皆さんは衛生環境面でも健康被害が出やすい状況での生活を強いられていました。

高齢者独居世帯や高齢者のみの世帯も多く、片付けや日々の生活に不安を抱えている方もおられました。

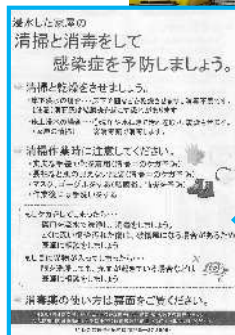
市民からは「雨が降ると不安になる」「夜眠れず眠剤を処方してもらった」「家の隣がごみの集積場になっており見ると悲しくなる」「子どもが粉塵を吸い込みアレルギー症状がでた」「将来のことを思うとつらくなる」「自殺という言葉がよぎる」等の訴えが聞かれました。

さらに、10月25日には大雨による警戒レベル4の避難勧告が発令され、道路が冠水する等の被害もありました。度重なる災害による衛生状況の悪化と身体的疲労に加えて、先が見えない不安から不眠等の精神的症状の訴えも多くありました。

避難所ではノロウイルス感染症の発生もあり、感染症予防対策や日常の生活の回復、精神面への支援等、長期的な視点での対策が求められています。



公園はごみ置き場に



家庭訪問による健康状態の把握の様子。訪問時は、左記のチラシと次亜塩素酸ナトリウムをお渡しし、消毒指導も行いました。

【活動実績】

活動日	23 日	24 日	25 日	26 日	27 日	28 日	29 日	30 日	合計
訪問世帯数	108	98	43	25	63	56	73	視察 (避難所 等)	466
状況把握(再掲)	50	53	25	23	33	35	42		261
状況把握者	124	132	47	54	83	86	104		630
要継続支援者	0	1	1	1	0	0	1		4

<他都市等による支援 10月30日時点>

秋田県、京都府、札幌市、名古屋市、神戸市、大阪市、明石市等



いわき市、他都市職員と一緒に

いわき市職員より

おかげさまで順調に健康調査を終えることができました。

派遣職員より

いわき市では河川氾濫地域に被害が限局されていたため、通常業務を行いながら被災者を支援する状況であり、その大変さを実感しました。